

有機野菜技術フォーラム in つくば
(兼 令和 6 年度農研機構中日本農業研究センター地域アドバイザーボード)
開催要領

1. 趣 旨

世界的な SDGs 等への関心の高まりから、環境に配慮して生産された農産物への需要が近年高まっており、その政策的な対応として、我が国でも農林水産省が「みどりの食料システム戦略」を策定（令和 3 年）したほか、先般改正された「食料・農業・農村基本法」では、環境と調和のとれた食料システムの確立が新たな基本理念として掲げられている。このような情勢の中、「みどりの食料システム戦略」では 2050 年目標として、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を 25%（100 万 ha）に拡大することとしているが、現状では約 3 万 ha（0.7%、令和 4 年）に留まっていることから、今後の革新的な技術・生産体系の開発とその社会実装による有機農業取組面積の拡大が強く求められている。そこで本フォーラムでは、農研機構内外で開発・実証等を行っている有機野菜生産技術・体系について、生産者の声を含め広く紹介するとともに、技術・体系開発や流通・販売面の課題とその対応、有機野菜生産の将来展望等について、アドバイザーボード委員等関係者と議論を行い、今後の有機野菜の生産面積拡大、安定生産等に資する。

2. 開催日時 令和 7 年 3 月 1 2 日（水）13：00 ～ 17：00

3. 開催場所 つくば国際会議場 中ホール
(〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3、TEL:029-861-0001)

4. 主 催 農研機構中日本農業研究センター

5. 後 援 いばらき有機農業技術研究会

6. 参 加 費 無料

7. 内 容 別紙の通り

8. 参集範囲

農業者、農業者団体、行政機関、試験研究機関、関連企業、大学、その他主催者が認める者

9. 連絡先

事務局：農研機構中日本農業研究センター研究推進部事業化推進室 田中 穰
(TEL：029-838-6738、E-mail：Organic-forum@ml.affrc.go.jp)

10. その他

参加申込み等については、事務局より別途連絡する。

別紙

有機野菜技術フォーラム in つくば
(兼 令和6年度農研機構中日本農業研究センター地域アドバイザリーボード)
プログラム

(司会：農研機構中日本農業研究センター 山崎 浩道)

開会・挨拶 13:00～13:10

農研機構中日本農業研究センター所長 橘田 和美
農林水産省関東農政局 生産部長 土居下 充洋

(1) 有機イチゴ栽培体系 ―有機イチゴ、できるんです！― 13:10～13:40

農研機構中日本農業研究センター 須賀 有子・石崎 摩美
(株) ふしちゃん 代表取締役 伏田 直弘

(2) 有機ミニトマト栽培体系 ―15年の実績あります！― 13:40～14:10

農研機構植物防疫研究部門 長坂 幸吉
農研機構中日本農業研究センター 山内 智史
(株) ユニオンファーム 総農場長 杜 建明

(3) 土づくりと減肥に役立つ緑肥の効果と有機栽培の現場での利用例 14:10～14:40

農研機構中日本農業研究センター 唐澤 敏彦
(株) 農楽 代表取締役 千葉 康伸

～～ 休憩 (10 分) ～～

(4) AI 小型除草ロボットを利用した有機葉菜類の雑草防除体系 14:50～15:20

農研機構中日本農業研究センター 田澤 純子
(株) ユニオンファーム 代表取締役 玉造 洋祐

(5) 施設葉物野菜における有機栽培年数の違いと土壌特性 15:20～15:40

茨城県農業総合センター園芸研究所 飯村 強

(6) パルシシステムにおける有機野菜の消費・生産の拡大への取り組みと課題 15:40～16:00

パルシシステム生活協同組合連合会 佐藤 哲郎

～～ 休憩 (5 分) ～～

(7) 総合討論 16:05～16:55

話題提供者、アドバイザリーボード委員 (別記参照)、参加者間の意見交換

閉会挨拶 16:55～17:00

農研機構中日本農業研究センター研究推進部長 佐々木 英和

別記

令和6年度農研機構中日本農業研究センター地域アドバイザーボード委員名簿（順不同、敬称略）

（株）ふしちゃん 代表取締役 伏田 直弘

（株）農楽 代表取締役 千葉 康伸

（株）ユニオンファーム 代表取締役 玉造 洋祐

パルシステム生活協同組合連合会 佐藤 哲郎

（株）カモスフィールド 代表取締役 大橋 正義

茨城県農業総合センター専門技術指導員室 専門技術指導員 矢田 和寛